

(4)各委員会の意見発表

① 第1委員会

「平和を大切にする心を育むまちづくり」



それでは、第1委員会の意見を発表します。

第1委員会のテーマは「平和を大切にする心を育むまちづくり」です。このテーマについて考えるため、^{わたし}私たちは、7月25日に、愛知・名古屋戦争に関する資料館^{しりょう しせつ}の施設見学を行いました。

そこで、^{わたし}私たちは、ばくだんや戦争を連想させるような昔の服装^{ふくそう}や遊び道具を見ました。湯飲みのような小さいものから、名古屋城^{じょう}という大きなものまで破かい^はされているのに、服装^{ふくそう}や遊び道具で子どもたちに戦争を教え、戦争をすすめていました。昔の子どもたちは戦争を考えさせられ、かわいそうだと思いました。なぜそこまでしなくてはならなかったのでしょうか。^{わたし}私たちは、戦争のことをわかっていふつもりで、わかっていないことに気づきました。

その後、^{わたし}私たちは施設見学をして、わかったことや思ったことをもとに、名古屋を「平和を大切にする心を育むまち」にするためには何をすればいいか考えました。

それでは、^{わたし}私たちが考えたことを順番に発表します。

○子ども議員

^{わたし}私は、愛知・名古屋戦争に関する資料館^{しりょう}があることを知りませんでした。テレビで見る沖縄^{おきなわ}、広島^{ながさき}、長崎^{ながさき}の人たちは、戦争をとて^{わたし}も近くに感じているのに、見学するまで私にとって戦争は教科書の中のことでした。

焼^{しょう}いだんで家の中にある陶器^{とうき}の茶つぼは熱でゆがんだり^{わたし}とけたり、大きく変わっていました。ばくだん、火のこわさを目にしました。

学校から資料館^{しりょう}へ校外学習に行ったり、パンフレットを配ったりして、みなさんに資料館^{しりょう}について知ってもらい、二度と戦争が起^{おこ}ってはいけないと考えてほしいです。

○子ども議員

日本には、E46集束焼^{しゅうそくしょう}いだんや250キロばくだんなどがいろいろなところに約43万発も打たれました。

小さな湯飲みから大きな名古屋城^{じょう}までもを焼きとかしてしまうばくだん、このようにまちを焼きつくしこわすものがあると思うと、こわく、悲しくなりました。

このように、戦争を起こすと、いろいろなもの、人までいなくなってしまうので、ばくだんはなくなるといけない存在^{そんざい}だと思いました。

○子ども議員

^{わたし}私は、戦争についての施設見学をさせていただきました。そこで、^{わたし}私は戦争の残こくさ、おそろしさを知りました。E46集束焼いだんというばくだんで建物を焼かれたり、金属回収令などというものも起こりました。

今の時代は、戦争は起きないかもしれませんが、「平和を大切にする心を育おまち」にするためには、戦争を経験した人に話を聞いたり、戦争について知ることが大切だと思いました。

○子ども議員

^{わたし}私は、施設見学で学んだことを参考にして、名古屋を「平和を大切にする心を育おまち」にするには、名古屋の一人一人が平和を大切にする心を持てばいいんじゃないかと思います。

○子ども議員

わたし しりょう
私が資料館で一番印象に残ったことは、250キロばくだんです。
250キロばくだんは、名古屋城じょうのような大きい建物をこわしてしま
うとてもおそろしいばくだんです。

わたし ちょうせん
私は、この前まで、北朝鮮とアメリカが戦争をするかのような
状態じょうたいであったと思いました。そして、もし戦争が起きてしまっ
たら、250キロばくだんのようなとてもおそろしいばくだんが北朝鮮ちょうせん
やアメリカに落ちてしまうのだと思うと、こわくなりました。そし
て、戦争は世界中で絶対ぜったいにさけなければいけないことだと思いま
した。

○子ども議員

わたし しせつ
私が施設見学で見たものは、悲しく、悲さんでした。子どもが身
につけているものは戦争に関連したものがえがかれ、子どものおも
ちゃは戦争を連想させるようなもので、自分がこの時代に生まれて
いたと思うと悲しくなっていました。

わたし
でも、私たち一人一人が仲よく、差別がなくなれば、戦争がなく
平和を育むまちになると思います。

○子ども議員

^{わたし}私は、「平和を大切にすることを育むまち」にするために、戦争に関するポスターやパンフレットをつくる必要があります。

それは、今では^{はくらん}博覧会や旅行ができて平和だから、まず戦争がどれほど悲しいことかを知らないといけないと思うからです。楽しいものが戦争中は悲しくなってしまうこと、当たり前のことができなくなってしまうことを名古屋のみんなに知ってもらいたいです。だから、^{わたし}私はポスターやパンフレットなどで戦争はとても悲さんなことだと伝えていく必要があると思います。

○子ども議員

^{わたし}私は、^{しせつ}施設見学で^{よくじつ}終戦翌日の新聞を見ました。多くの人が亡くなり、考えられないほど悲しんでいる写真がのせられていました。そこまで悲しむのと^{わたし}私は軽く考えていました。ですが、母にいろいろなことを聞いて、それはとてつもなくつらいことだと思い知りました。それを聞いた^{わたし}私は、^{ぜったい}絶対戦争はだめだと改めて思いました。

今の平和な世の中を続けていくためには、戦争につながっていくようなけんかや言い争いをなくしていかなくてはなりません。そのためには、^{わたし}私が一番大切に思っている笑顔をもっともっとふやしていくことがとても大切だと思います。

○子ども議員

^{わたし}私は、ばくだんのこわさを初めて知りました。ばくだんは、湯飲みのような小さなものから、大きな工場、名古屋^{じょう}城までもこわしてしま^{いりよく}う威力があります。そんなばくだんを決して許^{ゆる}してはいけないと思いました。そして、ばくだんというものをなくし、平和にしていかなければならないと思いました。

^{わたし}私たちだけではできないこともあるので、けんかをなくし、みんな^{わたし}で平和にしていきたいと思いました。

○子ども議員

^{わたし}私が施設^{しせつ}見学に行った愛知・名古屋戦争に関する資^{しりょう}料館というところでは、戦争に関していろいろなことを教えてくださいました。そこで、私^{わたし}は戦中の子どもが身につけているものが一番印象に残りました。理由は、今の子どもたちが身につけているものはおしゃれなものばかりだけれど、戦中の子どもたちが身につけているものは戦争を連想させるものが多いことにおどろいたからです。

戦中は子どものころから戦争にかかわったり、食べ物も少なかったと思うので、名古屋の人たちがそのことを知り、社会に役立って、「平和を大切に^{わたし}する心を育^{わたし}おまち」にしていけばいいのではないかと思います。

○子ども議員

愛知・名古屋戦争に関する資料館^{しりょう}を見学し、私^{わたし}が一番印象に残ったことは、戦中の人々の苦しむ^{すがた}姿です。争いは人々のいかりからきて、いかりはストレスからきて、ストレスは環境^{かんきょう}からきていると私^{わたし}は思います。なので、まず、争いのない平和な世の中にするために、環境^{かんきょう}を整え、心への害をなくすることが大切だと思います。

しかし、まち全体をきれいにするのは大変なので、環境^{かんきょう}によって心が動いた人たちにアンケートをしたらどうでしょう。それをきっかけに、まちや人の性格^{せいかく}までもが変わり、悪いことでなくよいことも知れます。

○子ども議員

ぼくが施設^{しせつ}見学で最も印象に残ったものは、戦争中に遊ばれていた子どもの遊び道具です。本来、遊びというものは楽しいものなのに、戦争を連想させるものばかり、すごろくも陣地^{じんち}をとり合うものだったり、積み木^{なら}を並べかえて形をつくる遊びの例の中に軍艦^{ぐんかん}があったりなどと、常に暮らし^{つね}の中に戦争と関係深いものがかくれていた。

意識^{いしき}され続けていたと思うと、現実^{げんじつ}のこととは思えない。戦争がどれだけおそろしいのか、ぼくはこのことをみんなに知ってほしいと思いました。そして、「平和を大切に作る心を育おまちづくり」を目指そうと思いました。

わたし

私たち第1委員会は、このようなことが名古屋を「平和を大切にする心を育むまち」にするために必要だと考えました。

これで、第1委員会の発表を終わります。

■ ^{そ う む か ん き ょ う}浅井総務環境委員長の^{と う べ ん}答弁

第1委員会のみなさん、大変すばらしい意見発表、おつかれさまでした。みなさんの発表を見て、短い時間で本当にきょうの本会議、ちゃんとできるのかな、^{わたし}私もみなさんがここへ立ったときに、お父さんやお母さんのようにちょっと^{しんぞう}心臓がドキドキしましたが、みなさんの発表を聞いてすばらしいなど、そんなふうに思いました。



第1委員会のテーマ、「平和を大切にする心を育むまち」ということで、みなさんには考えていただきました。いろいろなみなさんの口から250キロのばくだんの話だとか^{しょう}焼いだんの話、それから戦時中の子どもたちの^{ふくそう}服装、ゲーム、いろいろなことを考えたと思います。

平和というのは実にすばらしい。この日本では、今、ふつうに^{じゃぐち}蛇口をひねれば水は出るし、スイッチを入れれば電気がつく。しかし、今、世界のどこかで戦争をしているという事実があります。多分、みなさんは今回の愛知・名古屋戦争に関する^{しりょう}資料館へ行って、戦争というものをもっと深く考えていただけたのではないかと、そんなふうに思っております。

本当に3日間の間、一番最初、みなさんが来て、顔も知らない、名前も知らない中で、意見を交換^{こうかん}することによってどんどんみなさんとの親密^{しんみつ}な関係ができています。人間は、言葉をしゃべれる唯一^{ゆいいつ}の動物だと言われています。その言葉によって、この人類というもの、世界というものを君たちが平和にしていくこれからの課題をしっかりと身につけて、これからの小学校6年生は残り少ない小学校生活、5年生は来年最高学年です。しっかりと学校のリーダーとしてがんばっていただきたいと思います。

そして、今回、うえぞの副委員長、さはし副委員長、そして米山先生^{よねやま}、それから資料館^{しりょう}の学芸員のみなさんに大変お世話になったことを、この場をかりて深くお礼を申し上げたいと思います。

そして最後に、我が第1委員会から議長も選ばれました。子ども委員長、議長おつかれさまでした。そのときの所信表明^{しょしんひょうめい}で、子ども議長があいうえお作文みたいなのをやられました。そして、私もしっかりと考えてまいりました。

名古屋の「な」、何度でも立ち上がる。名古屋の「ご」、ゴール目指してがんばれ。名古屋の「や」、やってください、お願いします。

以上、私^{わたし}からのがんばれのエールとして終わらせていただきます。本当に3日間、おつかれさまでした。

